

■64年大会伴走者の川口洋子さん

今度は主役「感激」

寄与。約6年間にわたり県体操協会の会長も務めた。

さぬき市を走った川口洋子

さん(74)は高松市仏生山町は、前回1964年の東京大

会でも聖火リレーを経験。沿道からの声援に手を振って応

え「最高の一日だった。この感激は一生忘れられない」と話した。

64年は陸上部に所属する高松中央高2年生。正規ランナーの伴走者に選抜され、国旗を手に旧白鳥町を駆け抜けた。当時のリレーは現在に比べて走るスピードが格段に速かったといい、「1〜1.5キロほどだったと思うけど本当に

きつかった」と懐かしむ。

大学で徒手体操を学んだ後、母校・高松中央高で体操競技の指導者として長年活躍した。地元開催だった1993年の東四国国体では成年女子監督として優勝に導くなど、県の競技力向上に大きく



満面の笑みを浮かべて走る川口さん＝さぬき市志度

は「主役」として走り切った。スポーツに長年携わってきただけに、五輪に懸けるアスリート気持ちはよく分かっている。「どんな形であれ、大会は絶対に開いてほしい」と願っていた。

地方1